

PPPP

ファーストパーソンセックス



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

「えっこんな所で……出来るわけ無いでしょ!!」
「ききき……キスだなんて……」
「そんな顔しない!……嫌なわけじゃない!……わよ」

「はあ……時と場所を選びなさいって言うてるの」
「放課後で人が少なくて……ばれないから?一瞬だから?」
「どうやら○○君……あたしの言うてる事が理解できないのかしら」



「ちよ…なっ」
「んっ…♥んっ…♥」
「何して…っ駄目って…」
「はあ…っ♥んちゅ♥んちゅ♥」



「(…○君こんな積極的に…出来るんだ)」
「(最近創設祭の引き継ぎやらで構ってあげられなかつたから…)」
「(…仕様がないわね…今日は付き合ってくださいか)」

資材室

「資材室：ココだったら人来ないから：ね？」
「懐かしいでしょ？ 貴方がドジって二人で閉じ込められたわよね…」
「ん…何怯えてるのよ？」
「…!! ふふっ酷い事でもされるって想像でもしてた？」
「ああでも教室での事は後で、たっっぷり灸を据えないとね」



「ふふ冗談よ…」
「絢辻さんに構って貰えて嬉しい!! とかないの?」
「な…:…:…:っ!」
「そ そう…:…:そんなあたしと二人きりになれて嬉しいんだ」

「○○君のもう…こんなに硬い」

ぺろっ…ぺちよぺろぺろッ

「もう逃げたらちゃんとお出来ないじゃない」

んちゅぬるぬるぬるっ…

「相変わらず変な味ね…」

「?…何で○○君が謝るのよ」

「生物的に仕様が無い事でしょ?」

「それに…あたしこの味…嫌いじゃない…」

「!…って何言わせるのよ」

ぺろぺろぬりゅ♡ぬりゅ♡ぬりゅ♡ぬりゅ♡
じゅぶ♡じゅぶ♡じゅぶ♡じゅぶ♡





どぴゅっ♡ぴゅ
「んっふむっ……ふ……ふ……」
「(何時もより量も味も濃くて…粘り気もすごい)」
ゴクっ♡ゴクゴク♡ゴク♡
「んむウ?!んっ……んっんっ」
「っ……ふはっ」

「くちゅくちゅ…べえ〜」
「…っもう射精するのなら言いなさいよ…ね」
「あ…とちよっ…と一旦失礼するわね…」
「何しに行くって…良いから待ってて」
「あ〜っもう違うからお手洗い!」
「お手洗いにいきたいから待ってて!!…い・い・わ・ね?」



「…ってあれ？ドア開かない…」
「えっ…あたしが閉めたって？」
「なな何で修理されてないのよ」
「あたし言っと思ったのに…どうして」

「ッ！」

「落ち着けって？女の子の一大事よ？」
「えっ…セックスで気を紛らそうって…」
「今あたしが悲鳴を上げれば助けが来るかもしれないわね」
「変態！この変態っ！や…ちよっと…」



「放課後……だったわね」
「ちよつとすれば創設祭実行委員会の娘があたしを探しに来るだろうし」
「乗ってあげる……その低俗な案に」
「……早く挿れなさいよ」

「えっもう一回？」
「早く挿れなさいよ？」
「あっ……~~~~っ変っっつ態!!!」
「……ばっかっ」



ずぶっずぶぶぶぶぶ♡
「んっ…♡(や…これっ!?尿意がおさまるどころかッ)」「ぬっぷっ♡ぬっぷっ♡ぬっぷ♡ぬっぷ♡
「あっっ…♡んっ♡んっ♡(逆に抑えられないじゃない)」

「あっ♡ふっ…♡んっ♡んっ♡(やだっ声を抑えようとすると…出ちゃう)」「ぬちゅ♡にゅちにゅちゅ♡ぬちゅ♡
「あああ♡♡あ♡あ♡(声が抑えられないじゃないっ!!!)」「コンコンっ!」

「絢辻先輩…ここに居ますか…?創設祭実行委員の者ですが…」
「っ…!?!」

「あ…っと…どうしたのかしら？」
生徒A「良かった〜前年度予算案の用紙って何処にありますか？」
「それなら…実行委員会室の青いカラーボックスの黒いファイルに入ってるわね」
生徒A「あっ！そうでした〜すみません」

「いいのよ、大変だと思うけど体は壊さないようにね」
生徒A「あ…有難うございます！絢辻先輩それでは失礼しますっ」
「あっ!!待って…」
生徒A「…?」



「ユコを開けっ…」
ぬぶぬぶぬぶぬぶうっぬぶぬぶ♥

「……んうッ——?!」

「(ちよ…ちよっと何考えてんのよ!?)」
「(絢辻さんが誘って…た?そんなわけ無いでしょっ!!)」

生徒A「絢辻…先輩?どうしたんですか?」

ぬちゅ♥ぬちゅ♥ぬちゅ♥

「なん…っでも無い…の…んっ♥」

生徒A「大丈夫ですか?辛そうですよ…」

じゅぶじゅぶじゅぶじゅっぼ♥

「本当につっ…なんでも…無っんはッ♥」



生徒A「そういえば…資材室で何をしてるんです？」
ぬっぽぬっぽぬっぽ♥ぬっぽ♥
「皆がっ…んっ利用しやすい…ようにっ柵整理いっ…してるだけよ」

生徒A「えっ…先輩にそんな事させるわけにはっ…」
「良いの！…あっいや大丈夫よ…それよりちよっどお…んっ♥」
「私風邪っぽくて…んっんっ♥うっすと悪いから…ね？」
生徒A「絢辻先輩…私、絢辻先輩が手掛けた創設祭みたいに絶対成功させますから！」
「楽しみに…っん♥してるわね」



「ばかっ……！変態~~~~っ」
「はれたらっ♡んっ♡んっ♡どうするつも……りっだったの♡
にゅぷにゅぷにゅぷ♡
「はぐらかさない……っで♡」
ぱん♡ぱん♡ぱんっ♡

「あぁっん♡あん♡(もう声抑えなくて良いんだ)」
ぱんっぱんっぱんっ♡ぱんっ♡
「あっあっあっ♡」
ぱん♡ぱん♡ぱんっ♡



どぴゆるるるる——♡ぴゅっ♡ぴゅっ♡ぴゅっ♡ぴゅっ♡
「んっっ……はッ……あっ♡」
はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡
「すごい量……二回目なのに……」

「大丈夫な日だけど……デキちゃうかもね……♡」
「ふふ……今頃慌てて……情けないわね」
「あたしは良いんだけどな……このまま……」
「……冗談よ」



「ねえ……〇〇君の低俗で最低な案だったけど……」
「多少なり気が紛れてたみたい……」
「う……っ」

「そうよ……思い出したら……また（尿意が……）」
「えっ？……何て？」



「の…飲むって…本気？」
「うう…そんな意気込まれても…」
「出るわけ無いでしょ！」

「なんでそんな必死なのよ…」
くりっ♡くり♡
「ちよっ…と♡今そんなと触られたら…」



「あっ…♡」

ちよろ♡ちよろろろろろろろろろろろろろろろ♡

「や…○○君ごめんなさいっ…んっ止まらない」

ちよろろろろろろろろろろろ♡♡♡

「本当に…飲んで？」

ちよろろろろろろろろろろろろろろろ♡

「(我慢してたせいで…長い恥ずかしい)」



「だ…大丈夫○○君!」
「良かった…もう無茶しないで…」
「えっ…?」

「絢辻さんのおしっこは程よい酸味と苦味…」
「それに絢辻さんに暖められた程よい温度…」
「恥ずかしがってる絢辻さんは最高だった…ね…ですってえ…?」
○○君~~~~~ッ」



「本当あたし達の関係って変わらないわね」
「えっ？出られないのにあたしが何で落ち着いてるのかって？」
「ばかね：守衛さんが生徒が残っていか見回りに来るでしょ」
「待ってれば出られるわよ」

「それまでそうね：勉強でもみてあげ：」
「：っまだおさまらないの？」
「仕様が無いわね：：こうなったら」
「とことん絞り出してやるんだから：覚悟なさい♡」



乱視と君と。